

## 冬季学術講習会が開催されました！

11月22日(日)、郡山市民交流プラザ(ビッグアイ)7階 大会議室1にて冬季学術講習会が開催されました。コロナ禍により、春と夏の学術講習会が延期となり、ようやく実現した冬季学術講習会。全国で感染者数が増大する中、郡山市の指針により180名以上収容できる会場でしたが45名以内に抑え、受付では検温・消毒を実施、参加者にも1テーブルに1人着席、消毒やマスクの着用をお願いするなど、万全の体制で実施しました。

そして、今後の学術講習会のあり方の一つで、オンラインとリアル参加のハイブリッド化を見越した実験として、第1部のみビデオ・Web会議アプリケーションである『Zoom』を使い、学会東北支部の会員数名に視聴していただきました。結果は好評価をいただきまして、今後は可能な限りオンラインでも講習会を視聴できるように目指していきます。



第1部は本会会長の三瓶真一先生が『不妊治療で大切なこと～男性不妊について～』と題してご講演されました。

男性不妊にフォーカスした内容となっており、WHOの精液基準の根拠をご紹介、世界的に精子の数が減っている事実(1930年代は1ml中1億5千万個、1990年代は1ml中5千万個)の解説、三瓶会長が施術された貴重な症例報告など、盛りだくさんな内容でした。

後半には実技も。「五里～沢田流五里の間にある圧痛」と「三陰交」に寸6・3番鍼で刺鍼するデモンストレーションの他、中髎への刺鍼、陰部神経鍼通電療法など、先生が現場で実践されている手技を惜しげもなく披露していただきました。

披露していただいた経穴は生理痛や生理不順にも効果的とのことでした。小沼の後日談になりますが、生理前の下腹部鈍痛に著効があったことをご報告させていただきます。





第2部は『療養費等適正運用指導講習会』。日本鍼灸師会 健保委員会 副委員長の小林潤一郎先生をお招きし、鍼灸の保険治療に関する最新の動向を多岐にわたって解説していただきました。特に令和2年12月の料金改定、長期・頻回施術の今後について（償還払いに戻せる仕組みの検討について）、保険治療に携わる者が知っておくべき興味深いお話を丁寧にいただきました。

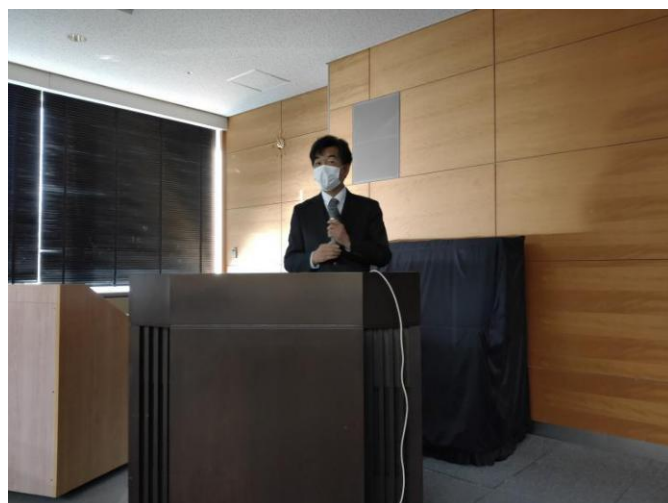
講演後、保険治療を行っている数名の会員から熱のこもった質疑があり、その内容は予定時間を

超過するほどでした。

実際の現場から出てくる様々な問題をガイドラインだけで解決することは難しいですね。受領委任制度が開始して1年半が経過した今、現場の声をもっと拾い上げていただきたいと願います。レアケースもありますから完全に対応するのは難しいかもしれませんが、現場の鍼灸師の心配や不安を解決できるような仕組み作りが急がれます。

第3部は全日本鍼灸学会 理事 東北支部長の中沢良平先生による『Cinemeducation シネメデュケーション；鍼灸師による地域・家庭医療を考える』をご講演いただきました。

日本では福島県立医科大学医学部地域・家庭医療学講座主任教授の葛西龍樹先生が推進されており、映画の一部分（クリップ）を用いたディスカッションのことをいいます。家庭医は、様々な人々の人生に関わります。映画を用いて、そのクリップの感想を語り、家庭医に求められる感受性を養うセッションです。



本来はグループに分かれてディスカッションを行い発表する、ワークショップ形式になりますが、コロナ禍ということで中沢先生が参加者一人ひとりに意見を聞いて回っていただきました。それぞれ出された感想は個性があり、様々な側面を捉えることができるものだと感心しました。

演題の副題には「地域・家庭医療を考える」とあり、これはプライマリ・ケアの話につながっていきます。医療の最終的な目的は、その地域に暮らす住民が生きがいを持って暮らせる人生を支えること。鍼灸師もその役割を担っています。日々の診療・臨床に忙殺され、プライマリ・ケアの基本的な考えが頭の片隅に追いやられてしまっていることはありませんでしょうか？ 恥ずかしながら小沼は片隅に追いやるところか忘却の彼方になっていました。今回、こうした機会をいただけたことで改めて地域に根差す鍼灸師像を思い出すことができ、とても有意義な時間を過ごせたことに感謝しています。